

群 教 ゼ	G11 - 03
	平15.213集

# みんなに役立つ喜びを見出す学級活動

— 「とびだせ！12カンパニー」の係活動を通して —

特別研修員 鎮西 宏子

## 《研究の概要》

本研究は、「12カンパニー」の係活動を通して、みんなに役立つ喜びを見出す学級活動を目指したものである。具体的には、今までの係活動の問題に気づき、「12カンパニー」を導入することで係活動の問題を解決しようとする意欲を高める。そして実践した活動を相互評価を通して振り返ることで、みんなに役立つ喜びを見出す児童が育成できることを実践を通して明らかにするものである。

【キーワード：特別活動 小学校 学級活動 係活動 相互評価 振り返り】

## 主題設定の理由

小学校高学年の段階は、男女の閉鎖的な仲間関係が改善され学級の仲間としての意識が育ち、集団の一員としての自覚を持つようになる時期である。特別活動においては、このような時期をとらえて多様な集団を編成し集団活動に積極的に取り組むことが大切であると考えられる。

本学級の児童（5年生 男子7名 女子5名）は、素直でちょっとした働きかけによって何事にも進んで取り組む積極性が見られる。しかし、5月に係活動の工夫について話し合った際、男子の黒板係に対し女子が「先生に言われる前に早く消しなよ」、女子の理科係に対して男子が「授業が終わったら早く先生に次の連絡を聞けよ」と言うなど本質を突いていながら思いやりに欠けた表現しかできず、言い争いに発展してしまいそうなことがあった。単学級で今までクラス替えがないために、低学年時の男女の閉鎖的な仲間関係をそのまま引きずり、学級全体としての仲間意識を持ったり、相手の身になって人の心を思いやったりする気持ちがあまり育っていないことが挙げられる。このような児童は、できる限り多様な集団の中で積極的に活動し、みんなに役立つ喜びを見出すことが必要である。

そこで本研究では、みんなに役立つ喜びを見出す多様な集団活動として、係の見直しに視点をあてることにした。特に、児童12人がみんなの役に立つことを目指し積極的に活動できるよう『12カンパニー』（「カンパニー」には「会社」という意味の他に「人の役に立つ」という意味がある）という組織で係を再編した。具体的には、話し合いによって今までの係活動にはあまり工夫がなかったということに気付く活動を行う。そして、「カンパニー」制を導入し、それぞれのカンパニーがめあての達成を目指した活動を行う。最後に、実践した活動を相互評価によって振り返る。このように「話し合い・実践・振り返り」という一連の活動に取り組むことによって、徐々にみんなに役立つ喜びを見出すことができると考えた。こうした活動を通して、仲間意識を持ったり人の心を思いやったりする気持ちを育むことができると考え、本主題を設定した。

## 研究のねらい

係活動に視点をあてた学級活動において、「12カンパニー」の話し合い・実践・振り返りを行うことによって、みんなに役立つ喜びを見出せることを実践を通して明らかにする。

## 研究の見通し

- 1 学級活動 において、社会科で学習中の自動車工場の3要素である「利潤の追求」「生産性の向上」「質の向上」との関連を図りながら係活動の「目的」「時間や人手の確保」「評価・改善」を振り返れば、今までの係活動の問題に気付くことができるであろう。
- 2 学級活動 において、「カンパニー」制を導入し、「利潤の追求」「生産性の向上」「質の向上」を追求する営業活動との関連を図りながら係活動を繰り返し実践していけば、係活動の問題を解決していこうとする意欲が高まるであろう。
- 3 学級活動 において、「お客様満足度チェック」や「ありがとうカード」などを用いて2週間の実践を振り返れば、みんなに役立つ喜びを見出すことができるであろう。

## 研究の内容

### 1 基本的な考え方

- (1) 「みんなに役立つ喜びを見出す」とは

みんなに役立つ喜びを見出すことは、仲間意識を持ったり人の心を思いやったりする気持ちを育む上で大切である。それらの気持ちは、高学年の児童に必要な「集団の一員としての所属感や役割意識の自覚」の素地となる。

本実践では、今までの係活動の問題に気づき、その問題を解決する過程で自分がみんなの役に立っていることを実感し喜びを見出していくことであると考えた。

- (2) 「とびだせ！<sup>じゅうに</sup>12カンパニー」の活動とは

「カンパニー」には、「会社・人の役に立つこと」という意味がある。また、「とびだせ！」には、「他の学年の子にもサッカーを教えてあげたり、お茶を飲ませてあげたりしたい」という児童の願い、「閉鎖的な仲間関係から脱却してほしい。さらには5年生12人という殻を破り全校児童の役に立ってほしい。そうすれば仲間意識を持ったり人の心を思いやったりする気持ちを育むことができるであろう」という担任の願いが込められている。本活動は5年生12人の活動となるために、児童の創意により「12カンパニー」という名前が付けられた。本活動は今までの係活動を見直し、創意工夫し楽しみながらみんなの役に立つことを目指す活動である。

本研究における「12カンパニー」の活動とは、利潤の追求を目指し、生産性や質を向上さ

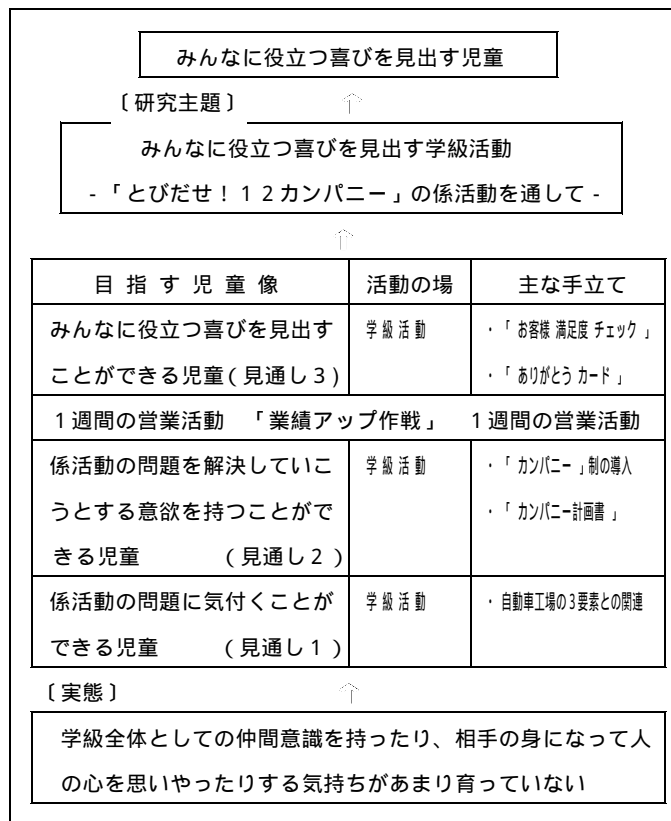


図1 全体構想図

せながら活動する会社の取組を係活動に応用したものである。

「利潤の追求」とは、係活動の目的を明確化し、みんなの役に立つことをすること、「生産性の向上」とは、係活動の時間や人手を確保するために、活動時間を昼休みや放課後にまで増やしたり忙しい時にはパートを募集したりして対応すること、「質の向上」とは、係活動を評価・改善するために、アンケート調査を行ったり、健康に関する活動なら養護教諭にアドバイスしてもらったりして活動の質を高めることである。

### (3) 「カンパニー計画書」とは

本活動で作成する「カンパニー計画書」とは、同じような「カンパニー」を作りたい児童どうしで相談しながら、カンパニー名(シンボルマークも記述)めあてめあて達成のための工夫(「生産性の向上」・「質の向上」)などを書くカードである。

### (4) 「業績アップ作戦」、「お客様満足度チェック」、「業績検討委員会」とは

- ・「業績アップ作戦」とは、「カンパニー」の業績をアップさせるための方法について児童どうしアドバイスし合う活動である。
- ・「お客様満足度チェック」とは、自社以外の「カンパニー」の業績をお客様の立場で振り返り1～5点で採点する活動である。
- ・「業績検討委員会」とは、「お客様満足度チェック」のポイントや「ありがとうカード」の枚数などを基にして、「カンパニー」を存続するか、他の「カンパニー」と合併するか、あるいは倒産するかを決める話し合い活動である。

## 2 実践の概要及び結果と考察

- (1) 社会科で学習中の自動車工場の3要素である「利潤の追求」「生産性の向上」「質の向上」との関連を図りながら係活動の「目的」「時間や人手の確保」「評価・改善」を振り返ることによって、今までの係活動の問題に気付くことができたか。(見通し1)

### ア 実践の概要

図2に見られるように、チャレンジスクールや運動会のような行事の時には「みんなの役に立つことができた」という児童が多いのに係活動では「みんなの役に立つことができない」という実態が見られた。そこで、固定概念にとらわれず視野を広げ興味を持ちながら取り組めるよう、社会科で学習中の自動車工場の3要素である「利潤の追求」「生産性の向上」「質の向上」との関連を図り係活動を見直す話し合いを行った。

### イ 結果と考察

係活動を見直す話し合いでは「何のために係活動をやっているのかあまり意識したことはない」「毎年同じような仕事をやっているだけ」という実態が浮き彫りになった。そこで、まず係活動は何のためにやるのかという目的をはっきりさせることにした。その際、児童が視野を広げ興味を持ちながら取り組めるよう、目的とそれに迫る手立てを自動車工場と関連させてとらえるようにした。

その際に、「みんなの役に立つ大切さ」を把握できるように、最初にチャレンジスクールや運動会などの行事の振り返りを行い、「利潤の追求」「生産性の向上」「質の向上」を次のよう

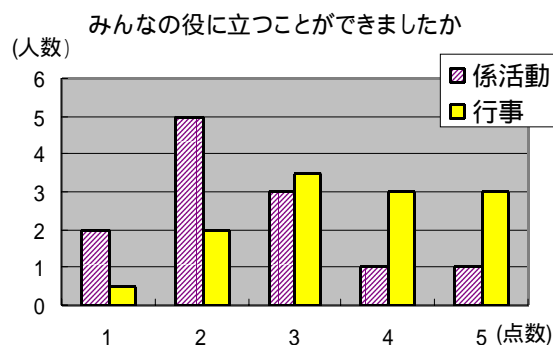


図2 係活動と行事との比較

にとらえていった。

- ・「利潤の追求」は、みんなの役に立つことができるという目的を持って活動した結果、低学年の子に「ありがとう」と言われたり先生や地域の方々に喜んでもらったりしたこと
- ・「生産性の向上」は、時間や人手を確保するために休み時間や放課後まで活動したり低学年にも手伝ってもらったりしたこと
- ・「質の向上」は、昨年度の反省を生かしさらによいものにするために、6年生に教えてもらい応援用のグッズを作ったり、各係に分かれて打ち合わせを繰り返し行ったりしてきたこと

とした。そして、「今までの係活動は行事のように目的達成のために『生産性の向上』や『質の向上』のような工夫や努力をしてきただろうか」と投げかけた。全ての児童が「目的もなく決められたことをするだけの係活動であった」と反省した。また、9人の児童がこれからの係活動について「このままだとだめだと思う。どうすればいいかわからないけど少し変わった方がいい」と答え、次の活動への意欲を示した。

抽出児A子も、「係活動より行事の方がみんなの役に立つことができた」と答えている。係活動の目的については「何も考えずにただただやっていたと思う」、目的達成のために工夫・努力してきたことについても「ない...」と答えた。また、これからの係活動については「ちょっと自分なりに考えてみた方がいいと思う」と問題意識を持つようになった。

以上のことから、社会科で学習中の自動車工場の3要素である「利潤の追求」「生産性の向上」「質の向上」との関連を図りながら係活動の「目的」「時間や人手の確保」「評価・改善」を振り返ったことで、今までの係活動の問題に気付くことができたと言える。

- (2) 「カンパニー」制を導入し、「利潤の追求」「生産性の向上」「質の向上」を追求する営業活動との関連を図りながら係活動を繰り返し実践することによって、係活動の問題を解決していこうとする意欲を持つことができたか。(見通し2)

#### ア 実践の概要

係活動の問題をどのようにしたら解決することができるか話し合った。その結果、「カンパニー」制を取り入れた係活動を行うことになった。同じような「カンパニー」をつくりたい児童どうして相談しながら「カンパニー計画書」を作成した。その後児童は、「1週間の営業活動 業績アップ作戦 1週間の営業活動」を行った。

#### イ 結果と考察

##### 資料1 カンパニー計画書

(A子が所属しているカンパニーのみ提示)  
計画書は下の1～4の順番で記述してある。

1.カンパニー名(以下、カンパニーは「C」と記す)
2.めあて
3.生産性の向上:「生」、質の向上:「質」
4.「業績アップ作戦」でアドバイスしてもらった内容

1. <u>お茶の味をみんなに楽しんでもらうC</u> (女子5人)
2. <u>みんなが「あーおいしい」と言ってくれるよう、おいしいお茶を入れる会社</u>
3. 生: 一人一人お湯を水筒に入れて持ってくる。 時間節約のため1時間目終了後用意する。 質: アンケートをとり飲み物の希望を聞く。 営業を1日おきにする。
4. おいしいだけのお茶から風邪対策などみんなの健康維持に一役買えるようにする。

1. <u>お茶の味 C</u> (女子2人、A子が社長)
2. <u>みんなが喜んでくれるよう、絵を描き教室に飾る会社</u>
3. 生: 2人で仕事を分担する。休みの日を作る。 質: <u>リクエストボックス</u> を作る。
4. 絵を教室に飾ったり他の学年にもあげたりしてみんなに喜ばれるようにする。

1. <u>お茶の味 C</u> (女子5人・男子1人)
2. <u>みんなが楽しんでくれるようイベントを企画運営する会社</u>
3. 生: 優勝者にあげる賞状を家で作ってくる。 質: アンケートをとり希望を聞く。 盛り上げるため直前まで秘密にしておく。
4. 短い時間に頻繁にやるなど時間の工夫を...

係活動の問題を解決する話し合いでは「係の仕事を忘れないようにする。さぼらないように気を付ける」といったような意見がほとんどであった。そこで計画委員が自動車工場のような会社設立を提案した。今までの係活動とは区別するために「カンパニー」と呼ぶことに決めた。児童からは「なにやるのかな?」「なんだか面白そう!」という声が出た。一人で複数のカンパニーに入っていることにした。同じようなカンパニーを作りたい児童どうして相談が始まった。

行事の振り返りの際提示した資料を参考にしたり、生産性・質のどちらなのか担任に意見を求めたりしながら「カンパニー計画書」を作成していった。

資料1は「カンパニー計画書」の一部である。8つの「カンパニー」すべてが「みんな……」で始まるめあてを書いている。どの「カンパニー」も「みんなの役に立つ」という目的が持っている。また、みんなの要望に応えるためにアンケートをとる「カンパニー」も出てきた。

「業績アップ作戦」では、児童一人一人が自社だけでなく他社全ての「カンパニー」に業績を上げるための方法を付箋に書きアドバイスしていた。自分の「カンパニー」のみならず友達の「カンパニー」の業績を上げることに意欲をもって取り組み、全部で96枚の付箋が張られ、そのうち70枚に業績を上げるための方法が工夫され書かれていた。

抽出児A子も「元気 クラッシュ 拍手 パチパチC」に対し「みんなのカンパニーの発表などをもっと盛り上げたらいいと思う」、「ネイチャー ライフ リクエストC」に対しては“この虫は～で…です”などと説明してもいいと思う”などすべての「カンパニー」にアドバイスすることができた。資料2は、A子が書いた「おえかきCからのお知らせ」である。「がんばってかきますのでガンガンポストに入れてってください」と書かれた内容から社長として張り切るA子の気持ちが伝わってくる。

以上のことから、「カンパニー」制を導入し、「利潤の追求」「生産性の向上」「質の向上」を追求する営業活動との関連を図りながら係活動を繰り返し実践したことで、係活動の問題を解決していこうとする意欲を持つことができたと言える。

- (3) 「お客様満足度チェック」や「ありがとうカード」などを用いて2週間の実践を振り返ることによって、みんなに役立つ喜びを見出すことができたか。(見通し3)

#### ア 実践の概要

「1週間の営業活動 業績アップ作戦 1週間の営業活動」の後、「カンパニー」の振り返りを行った。学級内で行った「お客様満足度チェック」(自社以外の「カンパニー」の業績を1～5点で採点する活動)の点数や、全校児童からももらった「ありがとうカード」(カンパニーの活動を全校児童に評価してもらうカード)の枚数に応じて、存続するか他の「カンパニー」と合併するか、あるいは倒産するかを決める「業績検討委員会」を開いた。

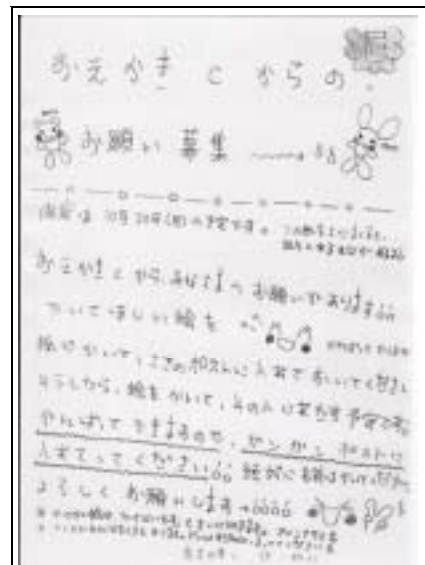
#### イ 結果と考察

「業績検討委員会」では、各カンパニーから「私たちのカンパニーはおお客様満足度チェックのポイントやありがとうカードの枚数が多いのでこれからも続けていきたいです」という意見が出された。「お客様満足度チェック」や「ありがとうカード」ではいつも最下位の「超ドッ

資料2 A子が書いた

「おえかきCからのお知らせ」

～は担任が記す



キリ リサイクルC」も存続を主張したが、「超ドッキリ リサイクルC」の活動に対して「何をやっているか分からない」という意見が多く出され、多数決の結果倒産に決まった。しかし、「業績はまだ上がってなくても時間のかかる仕事なので倒産するのはもったいない」という意見も出され、もう一度話し合いを行った。その結果営業活動を11月下旬まで延長し「ニュー 超ドッキリ リサイクルC」として再生を期すことになった。また「元気 クラッシュ 拍手パチパチC」は業績を上げるために「超(秘)大イベントC」と合併し実践することになった。

「ニュー 超ドッキリ リサイクルC」は、地道な活動を続け牛乳パックで小物入れを完成させた。みんなでペンなどを入れ今も大切に使っている。「超(秘)大イベントC」は、活動の場が広がったことによって意欲化が図られ、熱心にイベントを盛り上げ仲間にも喜ばれている。

人の役に立とうとする気持ちが家庭にも広がってきていることを賞賛するために、保護者に書いてもらった手紙(資料3)を紹介した。その後で、児童の係活動に対する意識を調査し整理したものが資料4である。今までの係活動では見出すことのできなかつた「喜びや活動の意欲、人の役に立つことの難しさ」などを実感している。また「みんなの役に立つことができましたか」と尋ねたところ全児童が3点以上の評価をし、今までの係活動より高い評価が得られた。その結果が図3である。

抽出児A子は、役に立つことができた喜びを資料5のように「絵をくばるとみんな『ありがとう』『かわいい』などと言ってくれてすごうれしくなりました。みんなが喜んでくれたのもっともみんなの役に立ちたい、喜んでもらいたいと思うようになりました」と書いており、嬉しい気持ちがもっと役に立

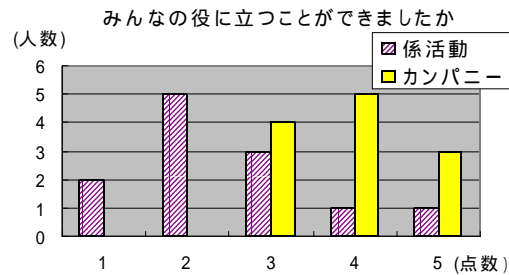


図3 係活動とカンパニーとの比較

### 資料3 保護者からの手紙

休日、祖父母にお茶をいれてくれました。祖父母が「おいしいね」と言っているのを聞いて嬉しそうな顔をしていました。

### 資料4 振り返りカードの整理

( ) は担任がつけたキーワード、 ~も担任が記述する

#### 【喜び】

・役に立った後「またお願いね」と言われるともう100%断れないくらい嬉しかったです。

#### 【活動の意欲】

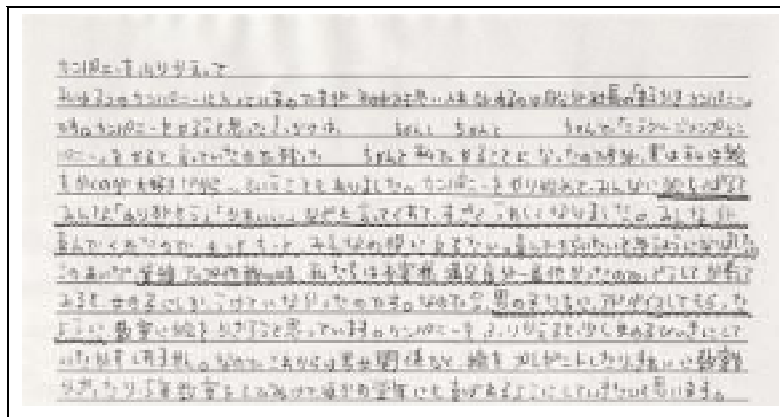
・A子ちゃんに二重跳びをちゃんと教えられなかったけど、A子ちゃんが1回跳べた時は私もすごく嬉しかったです。でもA子ちゃんはもっと嬉しかったと思いました。また色々な人に教えてあげたいです。

#### 【人の役に立つことの難しさ】

・倒産なんてないと思っていました。人の役に立つことの大変さが分かりました。

### 資料5 抽出児A子の振り返りカード

~は担任が記す





ちたいという気持ちへと発展している。カンパニーの活動を通して、友達との関わり方を変えることができた。

図4は学級活動における振り返りの場面で行った意識調査をまとめたものである。図4の上位ほど「みんなの役に立ったという気持ちが強い」ことを表している。全ての児童の係活動に対する意識が次第に変わってきていることが分かる。

以上のことから、「お客様満足度チェック」や「ありがとうカード」などを用いて2週間の実践を振り返ったことで、みんなに役立つ喜びを見出すことができたと言える。

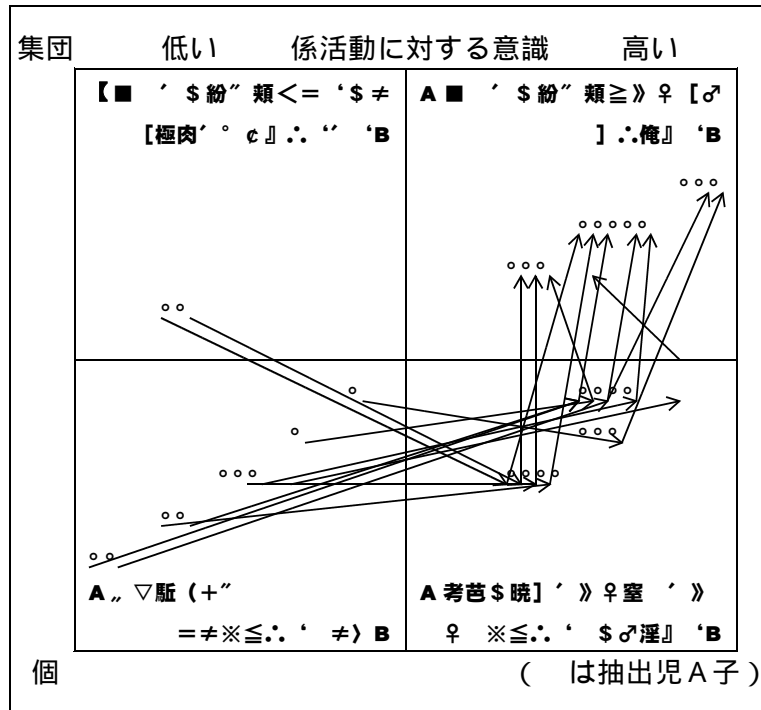


図4 係活動に対する意識の変容の構造図

## 研究のまとめと今後の課題

### 1 研究のまとめ

「とびだせ！12カンパニー」の活動を行うことで、児童は今までの係活動の問題に気づき、問題解決のための活動にも意欲的に取り組むことができた。また、相互評価による振り返りを通してみんなの役に立つ喜びを見出すことができた。その後の係活動でも児童は、本活動で使った「お客様満足度チェック」を取り入れ活動するなど、「みんなの役に立つ係活動」を意識して取り組むようになっている。

このことから、学級活動において「とびだせ！12カンパニー」の活動に取り組んだことで、児童の係活動に対する意識が次第に変わり、みんなに役立つ喜びを見出すことに有効であったと言える。

### 2 今後の課題

本活動は、「集団の一員としての所属感や役割意識の自覚」の素地となる「仲間意識や思いやりの気持ちの育成」の一翼を担うことができた。しかし、みんなの役に立つ喜びを見出す活動は、係活動から他の活動へと広がりを見せるまでには至っていない。今後もみんなの役に立つ喜びを見出すことを目指し「係活動の見直し」に続くものを児童の日常生活の中から取り上げ、仲間意識や思いやりの気持ちの育成を目指した活動に継続して取り組むことが必要である。

### 参考文献

- ・近藤 憲一郎 他 著『係活動のスタート・編成の工夫』特別活動研究 5月号 明治図書(2002)
- ・石塚 忠男 他 著『学級を前進させる係活動の再編成』特別活動研究 9月号 明治図書(2003)